

総合的な学習の時間とのつながりを もたせた特色ある学校づくり

二十五年目をむかえた全校合奏

壬生町立羽生田小学校 戸田 光枝

本校は、明治六年立道舎として創設、以来百三十九年の歴史があります。壬生町の北側に位置し、扇状地の羽生田城址に建ち、古墳が多く、川と緑豊かな自然に囲まれた農村地帯にあります。全校児童は三十五名という小規模校のため、第三学年と第四学年、第五学年と第六学年が複式学級になっています。そのため総合的な学習の時間は、二年間をワンサイクルとして取り組んでいます。地域の特産物の栽培（千瓢や野菜等）や歴史について、自分なりの課題を追求し、下学年や保護者、地域の方に分かったことや伝えたいことを発表しています。

今回は、本校の特色である全校合奏について紹介いたします。歴史は古く今年度は二十五年目になります。その間に、郡音楽祭や県音楽祭に参加したり、NHKで報道されたり、箱根音楽堂や国会議事堂で演奏させていただいたりしました。この全校合奏は、一年をかけて練習しています。心を



「郡音楽祭」

を合わせることで曲もそろい、良い音楽を奏でることが出来ます。そして、教育目標の一つである「みんなと仲よくできる子ども」にもつながっています。大変感動的な合奏です。

今年度は、獨協医大の歴史学会の前に演奏させてい

「田んぼ」と「ほたる」の活動を通して

小山市立中小学校 佐藤 茂男

本校は、小山市の西部に位置し、栃木市に隣接しています。昭和の中頃はこの辺りを美田村と呼んでおり、その名の通り美しい田んぼに囲まれた自然豊かな地域の中に在る学校です。

平成十三年に市の指定を受け、田んぼの活動がスタートしました。また、ほたるの活動は同じ年に当時の五年生が、総合的な学習の時間、中地区には昔たくさんのほたるが飛んでいたことを知り、「巴波川にほたるを甦らせたい」と始めました。その子どもたちの思いに、地域やPTAの方た

ただいたり、社会を明るくする運動の「いきいきコンサート」にも参加させていだいたり充実した年になります。

今後、小規模校だからこそできる教育を目指して「はにしの子」を育てていきたいと思えます。

ちが心を動かされ、校門の外には約二アールの田んぼと、校庭の隅にはほたるのピオトープが新しく作られました。

地域の環境に目を向け、巴波川の水質調査や清掃活動、川の生き物調査なども行ってきました。ほたるの幼虫やえさのカワナも川に放流してきました。今年で十二年目をむかえました。活動が続いています。五月初旬に田植えを行い、六月には「ほたるを観る会」が二日間にわたり行われます。幻想的なほたるの光の

美しさに、子どもたちの感動の音が響きます。九月に稲刈りと脱穀を行い、収穫したお米を学校祭でカレーライスにして、お世話になった方々にも食べていただきます。

そして、年が変わった二月には、ほたるの幼虫放流式を行い、三月には巴波川を清掃します。このように田んぼとほたるに関する活動が一年間続いています。その度に、多くの地域の方々が来てくださり、子どもたちに励ましの声をかけていただいたり、活動の協力をしていただいたりしています。

これらの活動を通して、地域を愛し、地域を誇れる子どもたちを育てていきたいと思えます。



「ほたるの幼虫放流」